



(別紙2-4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 キタカワ	代表者	北川 博康	法人・事業所の特徴	『生活の継続性の尊重』、『残存能力の活用』、『自己決定の尊重』の三つの理念を共有し、利用者本位の視点を大切にしたいきめ細やかな支援に努めている。同一建屋内に併設する居宅介護支援事業所やデイサービスセンターとは、合同で納涼祭や敬老会、運動会、餅つき等を開催し、地域の方々との交流を深める場にもなっている。又、隣接する特別養護老人ホームとは行事だけではなく、避難訓練や災害時の避難場所としても協力体制を整えている。 食事面では、栄養士による栄養管理の行き届いたバランスの良い食事を3食共に提供出来るだけではなく、毎月一回のグルメランチでは、ご当地の有名な食べ物が再現され好評を得ている。
事業所名	小規模多機能ホーム あゆ美	管理者	竹中 未喜江		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	0人	1人	1人	1人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員意見ノートを活用する取り組みが好評であったため、来年度も継続したい。より多くの意見をいただきたいが、意見する職員が偏らないよう職員間で気を付けて声を掛け合っていきたい。	ノートに残すという行為に捕らわれず、職員間で気軽に助言し合える職場作りを心掛けた（新人職員より、ノートに記入しづらいという意見があった）。	・「できていない点」ばかりでなく、「できている点」や「見習いたい点」等も気付きとして挙げたらよい。	各項目の改善計画を職員それぞれが意識し、先輩後輩関係なく意見交換や助言ができる職場作りを目指したい。

B. 事業所の しつらえ・環境	季節にふさわしい行事を行ったり手作りの調度品を飾ったりすることで屋内にいても自然と四季を感じることができる環境を目指す。	季節に合った作品や貼り絵などを製作する折、季節の話題が出たり、昔の行事ごとの話をしたりと利用者との会話が弾み、楽しい時間になっていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で聞く毎月の活動報告に、職員の方々の創意工夫が感じられる。 ・毎回行事をよく考えている。大変だと思う。 	レクリエーションに関しては外出行事にこだわらず、今の時世で自分たちが出来ることを全力で行いたい。職員は施設内外問わず、『命を守る行動を』をしっかりと意識して日常生活を送る。
C. 事業所と地域のか かわり	毎月発行している『あゆ美だより』をポスティングするなどし、施設の活動を地域の方々に知っていただく。	コロナ禍なので行事ごともなく、積極的に地域と関わることは難しいが、あゆ美内での活動を知っていただけたと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・(コロナ禍なので) 施設からの発信や働きかけも難しいと思うが頑張っしてほしい。 ・あゆ美便りではいつも利用者が笑顔なので安心している。 	『あゆ美だより』がよりよい発信源となるよう、常に内容を精査検討し、職員からもユニークな議題を提案してもらえよう事業所内で働きかける。
D. 地域に出向いて本 人の暮らしを支え る取組み	前回同様直接支援だけでなく、遠方の家族との絆を保つことができるよう支援したい。催しの案内だけでなく本人が書いた手紙やはがきを送ることも検討したい。	今年度は遠方同居関係なく、家族宛てに便りを出した。外出行事は激減したが手作りの年賀状や施設内に設置した神社への初詣などで季節の移ろいを感じていただけるよう工夫した。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会制限がある中で本人直筆の便りは本当にうれしいと思う。 ・孫に手紙やはがきを書くことでその文化が若い世代に引き継がれるのはよいことだ。 	マスク手袋消毒薬必携での訪問、少人数での散歩など感染症対策を行った上でできるだけ地域へは出かけていきたい。コロナ禍ではあるが、できるだけ利用者の日常生活の流れを変えることなく継続させたい。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	会議の内容をまとめ、家族に報告するなどし、運営推進会議を身近なものとして感じていただく。	会議の内容全てを伝えるのではなく、家族にとって聞きたい情報、必要な情報を吟味して連絡帳上で伝えた。特に活動報告は喜んでいただけた。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書は写真も多くわかりやすい。写真から職員の気遣いが感じられる。 	他局面から事業所のあり方が見えるよう議題を多様化したり、多くの家族にリアルタイムで会議に参加見学してもらえようオンラインでの開催も検討したい。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災・災害対策を施設規模ではなく地域の問題としてとらえ、ハザードマップや指定避難場所の確認などを随時行う。	災害勃発時の時間帯によっては指定避難場所への移動方法一つ取っても、より具体的なシミュレーションが必要であるとの気付きが得られた。次年度の災害対策につなげたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に避難訓練が行えているのならそれでよい。 ・非常食や飲料水の備蓄もあり、安心できる場所だと思う。 	現在行っている火災や水害に対する避難訓練だけでなく、地震や不審者に対する防災計画も(紙面上だけではなく)具体的に検討したい。